

平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」五年 年間指導計画作成資料

【構成】

各ページとも表形式で示した。上部に表組みの項目を置いてあるので、それに依ってご覧いただきたい。

【凡例】

配 当 月 ……目安としての配当月を示した。

時 数 ……単元・教材ごとの時数を示した。

単 元 ・ 教 材 ……単元名及び教材名を示し、その下に時数の配分を丸数字で示した。
例（書①読①）…書くこと1時間，読むこと1時間の配分を示す。

■ 学 習 目 標 ……単元及び教材を扱う際に目標とすることを示した。

<学習指導要領との対応> ……該当する学習指導要領の領域・項目・指導事項を示した。

◎印は重点項目

話聞…話すこと・聞くこと

書 ……書くこと

読 ……読むこと

伝国…伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

学 習 活 動 ……単元及び教材の主たる学習活動を示した。数字は学習の順序を想定したものにしてある。

評 価 規 準 ……教材ごとに該当する学習指導要領の項目に合わせて示した。

【関心】…国語への関心・意欲・態度

【話聞】…話すこと・聞くこと

【書く】…書くこと

【読む】…読むこと

【伝国】…伝統的言語文化と国語の特質に関する事項

平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」五年上巻

| 配当月 | 時数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-----|----|--|--|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 4 | 1 | <p>「今日はきのうの続きだけれど」 (読①) ■様子を思い浮かべながら読み、感じ取ったことが伝わるように、音読を工夫することができる。</p> <p>◎読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> | <p>①音読し、様子を考える。 ②作者の思いが表れている表現について考える。 ③感じたことや考えたことを大切にしながら、音読を工夫する。</p> | <p>【関心】作者の思いをとらえ、自分の思いや考えを重ねながら、詩を読もうとしている。 【読む】自分の思いや考えが伝わるように音読を工夫している。 【伝国】詩の表現、言葉の使い方の特徴に気付いている。</p> |
| | 1 | <p>学級作り 「つなげてトーク」 (話聞①) ■互いを認め合いながら、理由を明らかにして話したり、相手の話題を受けた上で、自分の考えを話したりすることができる。</p> <p>◎話聞(1)イ：目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ◎話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ○伝国イ(オ)：文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> | <p>①話題をとらえ、連想するイメージや好きな理由をメモする。 ②相手の話の内容や意図をとらえ、一部を復唱しながら、自分の考えや意見、体験などを付け加えて話す。</p> | <p>【関心】互いに尊重し合い、場に応じて適切に話したり聞いたりしようとしている。 【話聞】話題から考えたことを明確に伝えるために、理由を挙げて話したり、話し手の立場や考えをとらえながら聞いたりしている。 【話聞】相手の話題を受けた上で、適切な言葉遣いで自分の考えを話している。 【伝国】言葉のつなげ方や伝わり方を意識している。</p> |
| | 3 | <p>みんなで本を楽しもう 「やまなし」 (読①話聞①書①) ■物語の世界を、展開や表現などからとらえ、そのおもしろさを話し合ったり、「紹介カード」を書いたりすることができる。</p> <p>◎話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ◎話聞(1)オ：互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 ○書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○書(2)ウ：事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。 ◎読(1)エ：登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ○読(1)カ：目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> | <p>①「やまなし」の読み聞かせや音読をもとに、感想を出し合う。 ②不思議な言葉や言葉の組み合わせなどをもとに、作品のおもしろさを分析する。 ③宮沢賢治の作品を読み、「紹介カード」を書いて紹介し合う。</p> | <p>【関心】物語のおもしろさがどこにあるかをとらえながら、作品を読もうとしている。 【話聞】「紹介カード」をもとに宮沢賢治の作品の特徴について友達と交流している。 【書く】宮沢賢治の作品のおもしろさを伝えるための「紹介カード」をまとめている。 【読む】おもしろい描写や表現などをとらえ、宮沢賢治の独特の物語の世界を分析している。 【読む】宮沢賢治の作品のおもしろさを伝え合ったり、「紹介カード」にまとめたりしている。 【伝国】特徴的な言葉の使い方に気付いている。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|--|--|---|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 4 | 5 | <p>1. 物語のその後を話し合おう 「みちくさ」 (読③話聞②) ■人物の関係がどのように変わったか、 叙述をもとに読むことができる。 ■互いの読みや考えを交流し合うことができる。 ■人物の立場を考えながら、その後の関係を想像し、根拠を挙げて話し合うことができる。</p> <p>○話聞(1)オ：互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 ○読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○読(1)エ：登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○伝国イ(ケ)：比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p> | <p>①人物の関係を読む。 ②「不思議な気持ち」などの表現に着目し、心情の変化をとらえる。 ③表現をもとに、この後の人物の関係について考え、どうなったかを根拠を挙げて話し合う。</p> | <p>【関心】「ぼく」と「大介」の人間関係やその変化に関心をもって読もうとしている。 【話聞】登場人物の立場を考えながら、その後の二人の関係を想像し、根拠を挙げて互いの考えを交流し合うことができる。 【読む】「ぼく」と「大介」の相互関係や、「ぼく」の心情の変化を読み取っている。 【伝国】話し言葉と書き言葉の違いや、比喩表現の効果に気付いている。</p> |
| 5 | 2 | <p>言葉のきまり 1 「敬語」 (言①書①) ■敬語の使い方に慣れることができる。</p> <p>○伝国イ(ク)：日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。 ○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。</p> | <p>①尊敬語や謙譲語、丁寧語の意味を知り、使われている場面を考える。 ②日常使っている言葉を、適切な敬語で表現する。 ③敬語を用いた短文づくりをし、適正なものになっているか確かめる。</p> | <p>【関心】日常使われている敬語に関心を持ち、使おうとしている。 【伝国】敬語について知り、適切に使っている。 【伝国】敬語を用いた短文を、適正なものになっているか、確かめたり直したりしている。</p> |
| | | <p>1 漢字の部屋 1 「二字の熟語の構成」 (言①) ■漢字の熟語について、その組み立てと意味を理解することができる。</p> <p>○伝国イ(ウ)：送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ○伝国イ(エ)：語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> | <p>①二字熟語について、意味の関係を調べ、熟語の組み立てに気付く。 ②熟語を書き換えたり、辞典を使ったりして熟語の構成を調べ、送り仮名をつけ足しながら確かめる。</p> | <p>【関心】熟語の構成に対する関心を深め、進んで調べたり、適切に使おうとしたりしている。 【伝国】熟語の構成や意味について理解し、その使い方に対する感覚を意識しながら辞典で確かめたり、熟語を書き換えるときの送り仮名の付け方に注意したりすることができる。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|---|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 5 | 1 | <p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①)</p> <p>■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> | <p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って適正文を書く。 ④適正文になっているか確かめる。</p> | <p>【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】五年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p> |
| | 2 | <p>「東京スカイツリーのひみつ」を読む前に「生命のかて・塩」 (読②)</p> <p>■どのような話題が、どの順序で書かれているか、全体を見通した読み方をとらえることができる。</p> <p>○読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりすること。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。</p> | <p>①塩の働きを読む。 ②筆者の主張を読む。</p> | <p>【関心】塩を「生命のかて」と表現する筆者の考えと、その考えを展開するために用いている双括型の文章構成に関心をもち、読もうとしている。 【読む】塩の働きの事実と筆者の主張が、どのような順序で書かれているかをとらえ、全体の構成や要旨を考えながら読んでいる。 【伝国】双括型の文章構成であることを理解している。</p> |
| | 5 | <p>2. 要旨をとらえ、感想を伝え合おう 「東京スカイツリーのひみつ」 (読④書①)</p> <p>■筆者の主張を、文章構成などに着目しながら読み、要旨をとらえたり、それについての感想を書いて伝え合ったりすることができる。</p> <p>○読(1)イ：目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 ○読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりすること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○読(2)イ：自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。 ○書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 ○伝国イ(ケ)：比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p> | <p>①筆者の主張とスカイツリーのひみつとを結び付けながら読む。 ②「生命のかて・塩」と比べるなどして文章構成に着目し、問題と事例をとらえながら読む。 ③筆者の主張と、それを支える事例との関係を押さえながら、要旨をまとめる。 ④要旨をふまえて感想を書き、交流し合う。</p> | <p>【関心】東京スカイツリーのひみつや筆者の主張に関心をもち、それらを結び付けて読もうとしている。 【読む】文章構成に着目しながら、筆者の主張を読み、それを支える事例との関係を押さえながら要旨をまとめている。 【書く】要旨に対する感想をまとめ、それらの交流を通して自分の考えを広げたり深めたりしている。 【伝国】双括型の文章であることや、比喩表現が用いられていることに気付いている。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|--|--|---|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 5 | 2 | <p>言葉のいずみ 1 「和語・漢語・外来語」 (言②) ■和語や漢語、外来語について知り、語感の違いをとらえることができる。</p> <p>◎伝国イ(イ)：時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 ○伝国イ(エ)：語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 ◎伝国ウ(イ)：仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p> | <p>①本文を読んで、言葉の成り立ちを知る。 ②辞典を使って、様々な言葉の成り立ちや起こりについて調べる。 ③和語や漢語、外来語のそれぞれの語感の違いをとらえる。</p> | <p>【関心】言葉の由来や成り立ちに関心を持ち、学習を進めようとしている。 【伝国】辞典を使って、和語、漢語、外来語の別と、それらの由来や起こりについて調べたり、それぞれの語感の違いをとらえたりしている。</p> |
| | 1 | <p>漢字の部屋 2 「三字以上の熟語の構成」 (言①) ■三字以上の熟語の構成や成り立ちをとらえることができる。</p> <p>◎伝国イ(エ)：語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 ○伝国ウ(イ)：仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p> | <p>①熟語の構成のしかたをとらえる。 ②辞典を使って、熟語の構成を確かめる。</p> | <p>【関心】三字以上の熟語の構成に対して関心を深め、様々な熟語の構成と確かめようとしている。 【伝国】辞典を使うなどして、三字以上の熟語の構成を確かめている。</p> |
| | 1 | <p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア)：， 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> | <p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習の漢字を使って、文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p> | <p>【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】五年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|---|--|--|---|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 6 | 3 | 書き方・まとめ方 「すじ道（論理）を確かめる」 （書③） ■例文から，思考の筋道をとらえて吟味するとともに，自分なりに書いた文章の筋道を確かめることができる。 | ①例文から論理をとらえ，相互関係が明確な構成になっているかを考える。 ②事例を挙げながら文章を書く。 ③文章を読み合い，論理について確かめ合ったり，より適切な表現になるように助言し合ったりする。 | 【関心】 事実や考えたことを関係付けながら，思考の過程が明らかになるように文章を書こうとしている。 【書く】 連想をもとに，事実と自分の考えとを区別し，文章が筋道立つように構成を考えながら書いている。 【書く】 自分の考えが伝わるような効果的な表現方法を工夫するとともに，互いに読み合って表現のしかたについて助言し合うことができる。 【伝国】 演繹的な表現方法など，文章にはいろいろな構成があることについて理解している。 |
| | | ○書(1)ア：考えたことなどから書くことを決め，目的や意図に応じて，書く事柄を収集し，全体を見通して事柄を整理すること。 ◎書(1)イ：自分の考えを明確に表現するため，文章全体の構成の効果を考えること。 ◎書(1)ウ：事実と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い，表現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○書(2)イ：自分の課題について調べ，意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 | | |
| 7 | | 3. 自分の考えを提案しよう 「学校を百倍すてきにする方法」 （話聞⑦） ■提案することを決め，理由や実施効果をまとめることができる。 ■提案の構成を考え，場に応じた言葉遣いで発表することができる。 | ①目的に応じて，アイデアを出す話題（テーマ）を決める。 ②提案する内容について，課題や提案理由，実施効果やその方法などを考え，まとめる。 ③各自の考えを出し合い，詳しくたずね合ったり考えを比べたりしながら，自分の考えを練り直す。 ④事例が明確になるような構成を考え，メモにまとめる。 ⑤場に応じた適切な言葉遣いを考えながら発表する。 | 【関心】 学校生活をよりよくするための話し合い活動に関心をもち，進んでその改善策を考えて提案しようとしている。 【話聞】 聞き手に学校をすてきにするための提案がよく伝わるようにスピーチメモにまとめ，理由などを挙げながら，相手を見て話したり，適切な言葉遣いを考えたりしている。 【話聞】 発表者の主張を理解しながら聞き，自分の考えと比較したり自分の考えを練り直したりしている。 【伝国】 スピーチメモと実際の発表とから話し言葉と書き言葉の違いに気付いている。 |
| | ◎話聞(1)ア：考えたことや伝えたいことなどから話題を決め，収集した知識や情報を関係付けること。 ◎話聞(1)イ：目的や意図に応じて，事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら，場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ○話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ○話聞(2)ア：資料を提示しながら説明や報告をしたり，それらを聞いて助言や提案をしたりすること。 ○話聞(2)ウ：事物や人物を推薦したり，それを聞いたりすること。 ○伝国イ(ア)：話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 | | | |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|--|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 6 | 2 | 言葉のいずみ2 「方言と共通語」 (話聞①言①) ■共通語と方言の違いを理解し、自分の住む土地の言葉についての認識を深めることができる。 ◎話聞(1)ウ:共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。 ◎伝国イ(イ):時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 ○伝国イ(カ):語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 | ①本文を読み、方言と共通語の特徴やその違い、よさなどをとらえる。 ②共通語と方言とを聞き比べ、響きの違いや受ける感じの違いを話し合う。 ③方言を使った文章を共通語の文に直したり、共通語の文章を方言に直したりしながら話す。 | 【関心】 同一物の、方言としての様々な言い方とその語感について関心を持ち、認識を深めようとしている。 【話聞】 共通語と方言との違いやよさなどを理解し、時と場所など必要に応じて共通語で話したりしている。 【伝国】 方言と共通語の特徴やよさ、使い方などをとらえている。 |
| | 1 | 漢字の部屋3 「漢字の成り立ち 象形・指事・会意・形声」 (言①) ■漢字の成り立ちについてとらえ、その構成について調べたり、分類したりすることができる。 ◎伝国ウ(イ):仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 | ①本文を読み、象形や指事、会意、形声といった漢字の成り立ちについてとらえる。 ②辞典を使って、漢字の構成や意味、読み方などについてとらえる。 | 【関心】 漢字の成立と用法について関心を持ち、知識を増やそうとしている。 【伝国】 「象形」「指事」「会意」「形声」の漢字の成り立ちをとらえている。 |
| | 1 | 新しい漢字 (書①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ○書(1)オ:表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア):学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 | ①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。 | 【関心】 漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】 適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】 五年で配当されている漢字を読み書きしている。 |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|---|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 7 | 6 | <p>4. 読書を楽しもう 「注文の多い料理店」 「物語の人物が答えます」 本と友達 読書の部屋 (話聞①書①読④) ■優れた表現に着目しながら作品を読み 味わい、表現のしかたについて気付いた ことや感想、考えを出し合うことができ る。 ■「注文の多い料理店」などの独特な表 現から、その作品のおもしろさをとらえ ることができる。 ■本を読み、記録を残すことができる。</p> <p>○話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞 き、自分の意見と比べるなどして考えをまと めること。 ○書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別す るとともに、目的や意図に応じて簡単に書い たり詳しく書いたりすること。 ○書(2)ウ：事物のよさを多くの人に伝えるた めの文章を書くこと。 ○読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように 音読や朗読をすること。 ○読(1)エ：登場人物の相互関係や心情、場面 についての描写をとらえ、優れた叙述につい て自分の考えをまとめること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発 表し合い、自分の考えを広げたり深めたりす ること。 ○読(1)カ：目的に応じて、複数の本や文章な どを選んで比べて読むこと。 ○読(2)エ：本を読んで推薦の文章を書くこ と。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する 感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国イ(ケ)：比喩や反復などの表現の工夫 に気付くこと。</p> | <p>①場面の展開をとらえながら、 登場人物の会話や行動を整理す る。 ②人物の心情や場面の描写を味 わいながら読む。 ③表現のしかたなどについて気 付いたことや感想を話し合い、 作者の意図を考える。 ④「注文の多い料理店」を読み 返し、「物語の人物が答えます」 ゲームの準備をする。 ⑤「物語の人物が答えます」ゲ ームをする。 ⑥ゲームを行って挙げられたな ぞについて話し合う。 ⑦別のファンタジーなどを読ん で、そのお薦めのところを紹介 し合う。 ⑧テーマに沿った本や関心のあ る本を選んで読み、読書の幅を 広げる。 ⑨読んだ感想などを「調べた本 の記録」としてまとめる。 ⑩文章の中で使われた漢字を読 んだり書いたりする。 ⑪読み方や意味などを、辞典を 使って調べる。</p> | <p>【関心】自分勝手な紳士たち が、扉に書いてある言葉を都合 よく解釈して危機的な状況に 陥っていく物語を読み、その他 の同一作者の作品の世界を楽 しむ活動を通して、読書への関 心を深めたり読書生活を豊か にしたりしようとしている。 【話聞】自分の立場を決め、読 み取った内容と役柄とを関連 づけながら、計画的にゲーム形 式で質疑応答をしている。 【書く】読んだ本の内容など を、「調べた本の記録」として 簡単にまとめている。 【読む】紳士と山猫の相互関係 や心情、設定場面の描写をとら え、優れた叙述に着目しながら 読んでいる。 【読む】作品を音読したり、読 んで感じたことなどを交流し 合ったりしながら、ものの見方 や考え方を広げたり深めたり している。 【読む】おもしろさなどをとらえ ながら、作品を読み進めている。 【伝国】比喩表現などの特徴的 な言葉の使い方をとらえてい る。</p> |
| | 1 | <p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きするととも に、前学年で学習した漢字を文中で使う ことができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり 工夫したりすること。 ○伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年 までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されて いる漢字を書き、文や文章の中で使うととも に、当該学年に配当されている漢字を漸次書 き、文や文章の中で使うこと。</p> | <p>①文の中で使われた漢字を読ん だり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を 使って調べる。 ③既習漢字を使って適正文を作 る。 ④適正文になっているか確か める。</p> | <p>【関心】漢字に対する関心を深 め、適切に使おうとしている。 【書く】適正文になっている か、確かめたり直したりしてい る。 【伝国】五年や前学年までに配 当されている漢字を読み書き し、文中で使っている。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|--|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 9 | 2 | 詩を味わおう 「手紙」 「し」 (読②) ■描かれている情景などを想像し、工夫して音読することができる。 ◎読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○伝国イ(ケ)：比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 | ①詩の内容や表現で、共感できるところを話し合う。 ②内容や表現を味わいながら音読する。 | 【関心】作者の思いをとらえ自分の思いや考えを重ねながら、詩を読もうとしている。 【読む】作者の思いに加えて自分の思いや考えが伝わるように音読している。 【伝国】反復の表現に気付いている。 |
| | 3 | 言葉の文化に親しもう 「宇治拾遺物語」 文語詩「やしの実」 (言③) ■古文や文語詩に親しみ、大体的内容をとらえて音読することができる。 ■昔の人も、現代人と変わらない心をもっていたことを知ることができる。 ◎伝国ア(ア)：親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 ◎伝国ア(イ)：古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ○伝国イ(イ)：時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 | ①小野篁の話を読み、どんな人物かをとらえる。 ②資料「小野篁広才の事」などの原文を聞き、分かるところから内容を予想する。 ③現代語訳と比較し、意味を確かめる。 ④古文を音読したり、古典解釈の文章を読み、昔の人も現代人と変わらない心をもっていたことを確かめる。 ⑤文語詩とその解説を読み、大体的内容や作者についてなどをとらえる。 ⑥リズムを味わいながら、文語詩を音読する。 | 【関心】古文や文語詩にあらわされたものの見方や感じ方に関心をもち、読もうとしている。 【伝国】古文や文語詩について、内容の大体を知り、言葉の違いを確かめながら音読している。 【伝国】古典を解説した文章を読み、昔の人も現代人と変わらない心をもっていたことをとらえている。 【伝国】大体的内容をとらえながら、五七調のリズムを味わいながら音読している。 |
| | 2 | 手紙を書こう 「手紙の書き方」 (書②) ■手紙に表れる日本語の文化について気付くことができる。 ■頭語、結語などの書式を知り、手紙を書くことができる。 ◎書(1)ア：考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 ◎書(1)イ：自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ◎書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎書(1)カ：書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○伝国イ(ア)：話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 ○伝国イ(ク)：日常よく使われる敬語の使い方慣れること。 | ①手紙の形式やその表現に工夫があることをとらえることができる。 ②手紙を書く相手を決め、身近な出来事を形式に合わせて手紙の下書きをする。 ③下書きを読み直したり見せ合ったりして、適切な表現になっているか助言し合ったりして推敲し、清書する。 | 【関心】手紙の形式に対する関心を深めるとともに、手紙文のよさに気付いて、その書き方を活用しようとしている。 【書く】相手意識や目的意識をもって話題を決め、形式に合わせて手紙を書くとともに、手紙文の構成と表現の効果やよさを確かめている。 【伝国】書き言葉と話し言葉の違いに気づき、手紙文の構成を理解し、敬語の使い方に慣れている。 |

| 配当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|---------|--------|--|--|---|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 9 | 5 | <p>5. 随筆を書こう 「わたし風『枕草子』」 (書⑤) ■随筆を読み、その特徴を知ることができる。 ■自分の経験をふり返り、その季節や時間、情景などを書き出すことができる。 ■書き出したものをもとに、文章を書くことができる。</p> <p>○書(1)ア: 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 ○書(1)イ: 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ○書(1)ウ: 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○書(1)オ: 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○書(1)カ: 書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○書(2)ア: 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。 ○伝国ア(ア): 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 ○伝国ア(イ): 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ○伝国イ(カ): 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> | <p>①原文と口語訳とを照らし合わせ、大体的内容をとらえ、随筆の特徴を知る。 ②本文を季節ごとに音読し、暗唱や群読などを通して古典特有のリズムを味わう。 ③情景を想像し、好きな場面を話し合ったり、優れた叙述を書き写したりする。 ④自分の好きな情景や場面を季節ごとに出し合い、メモにまとめる。 ⑤メモをもとに、出来事と感想などが分かるように「わたし風『枕草子』」を書く。</p> | <p>【関心】自分の思いや考えを表現するのにふさわしい題材を見つけ、随筆を書こうとしている。 【書く】「枕草子」の書きぶりや清少納言の着眼点を参考にしながら、好きな季節や時間、場所、様子と自分の思いの関係を整理し、随筆の形式で書いている。 【書く】書き上げた作品を読み合い、感想を述べ合っている。 【伝国】昔の人のものの見方や感じ方を確かめるとともに、比喩表現などの工夫をとらえている。</p> |
| 10 | 2 | <p>言葉のきまり2 「せる・させる／れる・られる」 (書②) ■「せる」「させる」、「れる」「られる」を使った文が、使役・受身・可能・尊敬の働きを表していることを理解することができる。</p> <p>○書(1)オ: 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国イ(カ): 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国イ(ク): 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。</p> | <p>①「せる」「させる」「れる」「られる」の文から、「使役」「受身」、「可能」の働きをとらえる。 ②尊敬の表現を理解し、それぞれの働きを適切に使う。 ③「せる」「させる」「れる」「られる」を使った文を書く。 ④適正な文になっているか確かめる。</p> | <p>【関心】「使役」「受身」「可能」「尊敬」の表現に対する関心を深め、理解しようとしている。 【書く】表現効果について確かめたり直したりしている。 【伝国】それぞれの言葉の使い方を理解している。 【伝国】敬語としての用法に慣れている。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|---|---|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 10 | 1 | <p>言葉の広場 「慣用句を集めよう」 新しい漢字 (書①) ■慣用句を集め、言葉の由来や語感に対するとらえ方を豊かにすることができる。 ■学年配当漢字を読み書きすることができる。</p> <p>○書(1)オ：：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> | <p>①本文を読み、慣用句について知る。 ②慣用句を集め、辞典を使って、その意味を調べる。 ③文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ④読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ⑤既習漢字を使った文を作る。 ⑥適正な文になっているか確かめる。</p> | <p>【関心】慣用句に対する関心を深め、文中で使おうとしている。 【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】慣用句の意味を理解して、文中で使っている。 【伝国】五年で配当されている漢字を読み書きしている。</p> |
| - | (5) | <p>◆「和紙の心」 ■挙げられている事例をまとめ、取り上げられている二種類の題材の違いを比べることができる。 ■論の組み立てに注目しながら筆者の主張をとらえ、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>◎読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりすること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○伝国イ(キ)：文や文章には、いろいろな構成があることについて理解すること。</p> | <p>①和紙と洋紙の違いを読み取り、項目ごとに整理する。 ②和紙の性質と使われ方について事例を整理し、知っていることや調べたこと、経験したことなどを当てはめて考える。 ③事例や段落相互の関係を押さえながら要旨を読み取り、それについて自分の考えをまとめる。</p> | <p>【関心】筆者の意図や要旨をとらえ、自分の考えをもちながら文章を読もうとしている。 【読む】自分の意見をもつために、必要な内容を押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見の関係を押さえてたりして読んでいる。 【伝国】よさを伝えようとする主張のある文章構成であることをとらえている。</p> |
| - | (8) | <p>◆「父ちゃんの凧」 ■場面の描写、人物の相互関係や心情をとらえることができる。 ■叙述についての自分の考えをまとめることができる。</p> <p>◎読(1)エ：登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ○伝国イ(ケ)：比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p> | <p>①「父ちゃん」の作った二つの「凧」に込められた願いを考え、「父ちゃん」にとっての「凧」と主題との関わりを話し合う。 ②父を思う「わたし」の気持ちと「凧」に対する気持ちをまとめる。 ③物語の主題を話し合い、自分の考えを文にまとめる。</p> | <p>【関心】読書を通して、ものの見方や考え方を広げるために読もうとしている。 【読む】登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえている。 【伝国】比喩表現に気付いている。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|--|---|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| - | - | <p>◆「インターネットを活用して情報をさがそう」 ■インターネットによる情報収集のしかたと利用のルールを理解することができる。</p> <p>◎読(1)イ：目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。</p> | <p>①インターネットによる情報収集のしかたを理解する。 ②情報を活用する上での課題やマナー（情報モラル）を理解する。 ③調べたいテーマを決めて、インターネットを使って情報収集し、絵や写真、図表などを使いながら調べたことをまとめる。</p> | <p>【関心】 自分の課題の解決のために、複数の情報源からの情報を多面的に収集することを理解しようとしている。 【読む】 情報収集のしかたを知るとともに、情報利用のルールを知る。</p> |

平成27年度版「みんなと学ぶ 小学校 国語」五年下巻

| 配当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|---------|--------|---|--|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 10 | 1 | <p>「紙風船」 (読①) ■音読を工夫しながら、詩を読み味わうことができる。</p> <p>◎読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> | <p>①詩の内容で、共感できるところを話し合う。 ②音読を工夫しながら、詩を読み味わう。</p> | <p>【関心】作者の思いをとらえ、自分の思いを重ねながら詩を読もうとしている。 【読む】作者の思いに加えて自分の思いや考えが伝わるように音読している。 【伝国】詩の表現、言葉の使い方の特徴に気付いている。</p> |
| | 5 | <p>1. 紀行文を読もう 「トロッコ電車で行く黒部きょうこく」 (書①読④) ■事実と筆者の見方とを関係付けながら、紀行文を読むことができる。</p> <p>○書(1)ウ：事実と感想、意見などをもとに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ◎読(1)イ：目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 ◎読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○読(1)カ：目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> | <p>①筆者が体験したことや見聞したことを整理しながら読み取る。 ②読み取ったことを発表し合って、筆者の見た事実とその見方を確かめる。 ③事実をもとに、筆者の見方や考え方を読み取る。 ④他の紀行文を読み、紹介し合う。</p> | <p>【関心】紀行文に関心を持ち、読み進めようとしている。 【書く】紀行文として推薦したい本などを、理由を明らかにして書きまとめている。 【読む】路線に沿って描かれている周囲の風景を関連させて読んでいる。 【読む】小さな鉄道で大きな建設機材などが運び込まれていることなどの事実と、筆者の見方や考え方を関係付けながら読み、自分の考えを深めている。 【読む】他の紀行文を読み比べるなどしている。 【伝国】紀行文独特の書きぶりに気付いている。</p> |
| | 1 | <p>言葉のきまり 1 「文の構造」 (書①) ■三つの文の構造を知り、その文型の違いを見分けることができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 ○伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> | <p>①主語 - 述語の組み合わせに着目して、文の構造をとらえる。 ②文型の違いをとらえて、分類する。 ③「単文」「重文」「複文」を作って確かめる。</p> | <p>【関心】文の構造に対する関心を高め、「単文」「重文」「複文」の構造を理解しようとしている。 【書く】「単文」「重文」「複文」が適正に書けたか確かめたり直したりしている。 【伝国】主述の関係をとらえ、文の様々な構成について理解している。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|--|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 11 | 1 | 漢字の部屋 1 「意味と音を組み合わせた漢字」 (言①) ■漢字に対して関心を持ち、形声学文字について学習することができる。 ○伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ○伝国ウ(イ)：仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 | ①形声文字としての漢字の特質をとらえる。 ②提示された漢字それぞれの音訓や意味の違い、部首との関わりを、漢字辞典を使って調べる。 | 【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【伝国】形声文字の特質について理解している。 |
| | 2 | 読むために書く 「意見(主張)と根拠をとらえる」 (書①読①) ■意見(主張)と根拠を区別して書くことができる。 ○書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○書(1)エ：引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 ○読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。 ○読(2)イ：自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 | ①意見と根拠との関係をつかみ、例文から意見の部分と根拠の部分を区別する。 ②根拠やそれらと主題とのつながりとの適切さについて話し合う。 ③新聞や週刊誌の内容を資料に、根拠や主題との関わりが適切かどうか話し合い、自分の意見をまとめる。 | 【関心】事実と意見を区別してとらえ、自分の考えを書こうとしている。 【書く】事実と意見を区別して、必要な部分を抜き出すなどして考えたことを書きまとめている。 【読む】事実と感想、意見との関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読み取っている。 【伝国】意見文の簡単な構造を確かめている。 |
| | 1 | 新しい漢字 (書①) ■学年配当漢字を読み書きすることができる。 ○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 | ①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使った文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。 | 【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり書いたりしている。 【伝国】五年で配当されている漢字を読み書きしている。 |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|--|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 11 | 5 | <p>2. 立場を決めて討論をしよう 「より良い考え方はどっち？」 (話聞⑤)</p> <p>■討論の方法について理解し、立場を決め、必要な情報を集め話し合うことができる。</p> <p>■情報をもとに、意見や主張を支える資料などをまとめることができる。</p> <p>■討論をし、その内容について評価することができる。</p> <p>○話聞(1)ア: 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。</p> <p>○話聞(1)イ: 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。</p> <p>○話聞(1)ウ: 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。</p> <p>◎話聞(1)エ: 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。</p> <p>◎話聞(1)オ: 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。</p> <p>○話聞(2)ア: 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。</p> <p>○話聞(2)イ: 調べたことやまとめたことについて、討論などをすること。</p> <p>○伝国イ(ア): 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。</p> <p>○伝国イ(ク): 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。</p> | <p>①討論の進め方やルールを理解し、討論会への見通しをもつ。</p> <p>②対立しそうな論題を出し合い、討論会で取り上げる内容やグループを決める。</p> <p>③論題にそって立場を決め、資料を集めたりインタビューをしたりしながら、根拠となる情報を取材する。</p> <p>④質問や反対意見に対する対応策を考えてまとめたり、提示する資料を作成したりする。</p> <p>⑤討論会を開き、互いの意見を比較しながら話し合う。</p> <p>⑥意見と根拠との関係や論の進め方、展開の適切さなどを判定し、評価する。</p> <p>⑦学習の成果や課題を出し合う。</p> | <p>【関心】 主張がより効果的になるよう、根拠を明確にしながら討論したり、ふり返ったりしようとしている。</p> <p>【話聞】 立論を考えて、自分たちの意見を支えるために必要な情報を収集し、図表やグラフを関連付けた資料としてまとめている。</p> <p>【話聞】 資料を効果的に提示しながら、共通語を用い、場に応じた言葉遣いで討論している。</p> <p>【話聞】 状況に応じて、意図をより明確に伝えるにはどうすればよいか助言し合ったり、よりよい主張にするために互いの意見を比べたり考えたりしながら計画的に討論して評価し合っている。</p> <p>【伝国】 話し言葉と書き言葉の違いを理解し、丁寧な言葉で話している。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|--|---|---|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 11 | 4 | 書き方・まとめ方 「表やグラフを使って伝えよう」 (書④) ■表やグラフから分かることを挙げながら読み取り方をつかみ、それを根拠に文章をまとめることができる。 ○書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ◎書(1)エ：引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 ◎書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○書(1)カ：書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○書(2)イ：自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。 ○書(2)ウ：事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 | ①表やグラフから分かることを、箇条書きにまとめる。 ②例文の文章構成をとらえ、見出しをもったり、表現上の工夫をまとめたりする。 ③資料の図表やグラフをもとに、分かったことや考えたことをメモする。 ④町のよさを伝えるために図表やグラフを使って、簡単な文章にまとめる。 ⑤互いに書いたものを読み合い、図表やグラフを効果的に使っているかを話し合う。 ⑥自分の住む町などのよさを伝えるために、図表やグラフを活用して文章を書いている。 | 【関心】 図表やグラフなどを引用することによって、自分の考えを分かりやすく伝えようとしている。 【書く】 自分の考えの根拠となる事実を、グラフや図表を用いて書いている。 【書く】 町のよさを伝えるために、自分の考えとそれを支える事実を、読み手に分かるように書いている。 【書く】 表やグラフを用いた文章を読み合い、表現のしかたについて確かめたり助言し合ったりしている。 【伝国】 グラフや表を用いた文章の効果に気付いている。 |
| | 1 | 言葉のいずみ1 「複合語」 (書①) ■複合語に関心をもち、言葉の使い方を考えることができる。 ◎書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国イ(ウ)：送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ◎伝国イ(エ)：語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 ○伝国イ(オ)：文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 | ①複合語のでき方や送り仮名の仕組みをとらえる。 ②例文にしたがって、複合語を作ったり調べたりする。 ③複合語を使った文を作り、適正な文が書けたか確かめる。 | 【関心】 複合語に対する関心を深め、適切に用いようとしている。 【書く】 適正な文が書けたかを確かめたり直したりしている。 【伝国】 複合語についての理解を深め、その使い方に対する感覚などについて意識している。 【伝国】 言葉が組み合わせると、仮名遣いの変化するものがあることに気付いている。 |

| 配当月 | 時数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-----|----|--|--|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 11 | 1 | 漢字の部屋2 「漢字の音読み」 (言①) ■漢字に対して関心をもち、音読みについて学習することができる。 ○書(1)オ:表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国ウ(ア):、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ○伝国ウ(イ):仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ○伝国イ(エ):語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 | ①本文を読み、複数の音読みについてとらえる。 ②提示された漢字それぞれの音読みや熟語の意味などを、辞典を使って調べる。 ③調べた漢字を使って、文を作る。 | 【関心】漢字の読みに対する関心をもち、複数の音読みがあることについての理解を深めようとしている。 【伝国】漢字の読み方の由来を知り、複数の音読みがある理由を理解している。 |
| | 1 | 新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。 ○書(1)オ:表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国ウ(ア):、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 | ①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正文が書けたか確かめる。 | 【関心】漢字に対する関心を深め適切に使おうとしている。 【書く】適正文が書けたか、確かめたり直したりしている。 【伝国】五年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。 |
| 12 | 3 | 詩を書こう 「短歌・俳句を作ろう」 (書③) ■短歌や俳句の表現形式をとらえることができる。 ■表現を工夫し、その効果を確かめることができる。 ○書(1)ア:考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 ○書(1)オ:表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○書(1)カ:書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○書(2)ア:経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。 ○伝国イ(カ):語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 | ①短歌を詠んで、五音七音のリズムを確認し、作品に込められた作者の思いを話し合う。 ②短歌に込められた情景などを思い浮かべ、ふさわしい表現を話し合うことで、凝縮された表現を工夫したり味わったりする。 ③俳句の特徴を理解し、季語の役割を考えたり、音読して情景などを想像したりする。 ④短歌や俳句の表現形式を押さえながら、身近な情景や生活の中で感じたことを作品にまとめる。 ⑤作った短歌や俳句を話し合い、互いのよさを認め合ったり、自他の感生の違を味わったりする。 | 【関心】身近な情景や場面をとらえ、五音七音の言葉によるリズムや表現を意識しながら短歌や俳句を創作しようとしている。 【書く】自分の心が揺さぶられた体験を想起して、短歌や俳句の題材を設定し全体のリズムを考えながら書いている。 【書く】創作した短歌や俳句を読み返し、用いた言葉がふさわしいか確かめたり、表現を工夫したり助言し合ったりしている。 【書く】できた作品を発表し合い、表現のしかたなどのよさに着目して認め合っている。 【伝国】五音七音のリズムや言葉の使い方をとらえている。 |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|--|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 12 | 6 | <p>3. 人の生き方を読もう 「レイチェル＝カーソン」 (読⑤話聞①) ■どのような人物として伝記に書かれているかを読み、考えたことを話し合うことができる。</p> <p>○話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ○読(1)ア：自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○読(1)エ：登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○読(2)ア：伝記を読み、自分の生き方について考えること。 ○伝国イ(ケ)：比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p> | <p>①レイチェル＝カーソンの人物像をとらえる。 ②レイチェル＝カーソンがしたことを、時間の流れにそって、年表にまとめる。 ③レイチェル＝カーソンの生き方に対する自分の考えをまとめ、友達のと比べ合う。</p> | <p>【関心】伝記というジャンルに関心を持ち、レイチェル＝カーソンの生き方について読もうとしている。 【話聞】レイチェル＝カーソンの生き方や作者の見方に対する自分の考えを友達感想・意見と比べている。 【読む】レイチェル＝カーソンの生き方・考え方などを読み、人物像を思い描いている。 【読む】レイチェルの思いを考え、話を音読している。 【読む】読み取った人物像について発表し合い、レイチェル＝カーソンに対する理解を広げたり、深めたりして、自分の生き方についても考えている。 【伝国】比喻表現が用いられていることに気付いている。</p> |
| | 2 | <p>読書を広げよう 「なぜ本を読むのか」 本と友達 読書の部屋 (読②) ■本を読むことの必要性を考えたり読書を楽しんだりすることができる。</p> <p>○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○読(1)カ：目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。</p> | <p>①本文を読み、なぜ本を読むのかをとらえる。 ②今まで読んだ、おもしろかった本を書き出す。 ③本を読むことは、自分にとって必要なことだったかをふり返る。 ④読書を楽しむ。</p> | <p>【関心】なぜ本を読むのかを考えながら読み、読書生活を豊かにしようとしている。 【読む】本を読むことの必要性について考えを深め、自分の読書経験をふり返ったり、選んで本を読んだりしている。</p> |
| | 1 | <p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国ウ(ア)：学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> | <p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p> | <p>【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】適正文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】五年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|--|--|---|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 1 | 5 | <p>4. きゃく本を作ろう 「人物を生き生きとえがき出そう」 (書⑤) ■脚本の形式を知り、文章を脚本の形に書き直すことができる。</p> <p>○書(1)ア: 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 ○書(1)イ: 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ○書(1)オ: 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○書(1)カ: 書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○書(2)ア: 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。 ○伝国イ(カ): 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> | <p>①せりふやト書きについて知り、脚本の形式をとらえる。 ②例として出された本文と脚本形式に書き直したものとを比べ、その違いをとらえる。 ③登場人物の様子などがよく分かる場面を、脚本の形に書き直す。 ④書いた脚本を読み返し、場面や人物の様子などがよく表現されているか確かめる。 ⑤できあがった脚本を読み合ったり、演じたりして、様子が伝わったかどうか、感想を伝え合う。</p> | <p>【関心】脚本作りに関心を持ち、創作活動を楽しもうとしている。 【書く】場面や登場人物の様子などがよく分かるように全体を見通し、構成の効果を考えて脚本作りをし、読み返したり読み合ったりして、よりよい表現に書き換えている。 【書く】書いたものを発表し合い、心に残った表現や書き方のよさを伝え合っている。 【伝国】脚本ならではの言葉の使い方に気付いている。</p> |
| | 1 | <p>言葉で伝えよう 「親しみを表現しよう」 (話①) ■あいまいな言葉へのイメージを共有し合うことで、よりよい人間関係の築き方の参考にすることができる。</p> <p>○話①(1)イ: 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ○話①(1)エ: 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ○話①(1)オ: 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。 ○伝国イ(カ): 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> | <p>①「親しみ」の意味をとらえる。 ②友達と親しみを感じ合える場面を書き出す。 ③発表し合い、「親しみ」へのイメージを共有化し、自分たちの人間関係の築き方についてふり返ったり、考えたりする。</p> | <p>【関心】よりよい人間関係の築き方について、自分たちの生活をふり返ったり、考えたりしようとしている。 【話①】友達と親しみを感じ合える場面やそこで感じたことなどを出し合い、互いの立場や意図をとらえながらよりよい人間関係の築き方について考え合っている。 【話①】よい関係を築くための場に応じた言葉遣いややりとりを確かめている。 【伝国】言語を通した伝え合いの、より好ましいあり方について関心をもっている。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|--|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 1 | 2 | 言葉のきまり2 「動作の状態や意味をくわしくする言葉」 (書②) ■組になって使われる言葉として、副詞と助動詞との関係を理解することができる。 ■助動詞の違いで、文の意味が変わることを理解することができる。 ○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国イ(エ)：語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 ◎伝国イ(オ)：文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 ○伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国イ(キ)：文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 | ①副詞と助動詞との関係について知り、適切な使い方を理解する。 ②副詞と助動詞との関係を押さえて文を書いたり、適切に直したりする。 ③動作の継続や完了などの意味を示す表現の違いに気付き、具体例を当てはめながらの使い分けを理解する。 | 【関心】 副詞や助動詞の使い方に関心を持ち、適切に使おうとしている。 【書く】 書いた文が適正なものになっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】 文中で組みになって使われる語と語との関係とその構成に気付き、理解を深めている。 【伝国】 副詞や助動詞などの使い方について確かめながら使っている。 |
| | | 漢字の部屋3 「漢字の訓読み」 (言①) ■漢字の訓読みについての理解を深めることができる。 ○伝国イ(ウ)：送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ◎伝国イ(カ)：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国ウ(イ)：仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 | | |
| | 5 | 5. 情報の伝わり方を知り、考えを深めよう 「メディア・リテラシー入門」 (読④書①) ■筆者の考え方と根拠を確かめながら読み、自分の考えをまとめることができる。 ○書(1)ウ：事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ○書(1)エ：引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 ◎読(1)ウ：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること。 ○読(1)オ：本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○読(2)ウ：編集のしかたや記事の書き方に注意して新聞を読むこと。 ○伝国イ(オ)：文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 | ①本文を読み、問いと結論、筆者の考えをとらえる。 ②様々なメディアにおけるニュースの特徴をまとめ、「メディア・リテラシー」について考える。 ③筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、発表し合う。 | 【関心】 情報の伝わり方に関心を持ち、「メディア・リテラシー」についての自分の考えを深めようとしている。 【書く】 筆者の主張に対する自分の考えを、引用したり根拠を挙げたりしながら区別して書いている。 【読む】 様々なメディアにおけるニュースの特徴をまとめたり、筆者の「メディア・リテラシー」に対する考え方とその根拠を読み取ったりすることで、自分の考えを深めている。 【伝国】 様々な「情報」に気付き理解している。 |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|---|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 2 | 1 | <p>自分の見方を持つ 「オーディエンス」 (読①)</p> <p>■「オーディエンス」に対する筆者の主張を読み取り、メディアへの自分の見方や考え方を広げることができる。</p> <p>○読(1)オ:本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○伝国イ(オ):文章の中での語句と語句との関係を理解すること。</p> | <p>①本文を読み、「オーディエンス」の意味やそれを対象にした情報提供のしかたの工夫などについてとらえる。 ②筆者の考えに対する自分の考えを出し合ったり、まとめたりする。</p> | <p>【関心】「オーディエンス」について関心を持ち、自分の考えを広げようとしている。 【読む】「オーディエンス」に対する筆者の主張を読み取り、メディアに対する自分の考えを深めたり広げたりしている。 【伝国】「オーディエンス」に関心を持ち、意味をとらえている。</p> |
| | 1 | <p>言葉で遊ぼう 「言葉をあやつろう」 (書①)</p> <p>■言葉遊びを通して、語句の響きや語感を楽しむことができる。</p> <p>○書(1)オ:表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国イ(イ):時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 ○伝国イ(カ):語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> | <p>①詩のおもしろさを、理由や根拠を挙げながら出し合う。 ②「言葉の引き算・足し算」を楽しむ。 ③回文の仕組みを理解し、回文を読んだり作ったりしながら、そのおもしろさや気付いたことを話し合う。</p> | <p>【関心】言葉の響きに関心を持ち、言葉遊びを楽しもうとしている。 【書く】作った文が適正なものになっているか確かめたり直したりしている。 【伝国】回文になっている短歌のでき方に気付いている。 【伝国】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しながら、言葉の引き算・足し算をしたり、回文を作ったりしている。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|--|---|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 2 | 6 | <p>6. 情報を整理して発信しよう 「来年の新生に学校しょうかいをしよう」 (書③話聞③)</p> <p>■効果的な情報収集をすることができる。 ■集めた情報を整理し、それを生かして紹介することができる。 ■情報をもとに、効果的なプレゼンテーションの構想をまとめることができる。</p> <p>○話聞(1)ア：考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。 ◎話聞(1)イ：目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ○話聞(1)ウ：共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。 ○話聞(1)エ：話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ○話聞(2)ア：資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。 ○書(1)イ：自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ○書(1)オ：表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎書(1)カ：書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うこと。 ○伝国イ(ア)：話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ○伝国イ(ク)：日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。</p> | <p>①紹介する内容や方法を決める。 ②表を作り、構想をまとめる。 ③表をもとに、原稿をまとめる。 ④学校紹介の練習をする。 ⑤学校紹介をする。</p> | <p>【関心】 新生に対して、進んで伝える内容や方法について話し合ったり、構成表を書いたり、伝えるための表現物を作ったりしようとしている。 【話聞】 園児に伝えたいことについて、効果的な情報を集めたり、提示のしかたを工夫したりしている。 【話聞】 丁寧な言葉遣いを用いながら共通語で発表している。 【書く】 目的や意図に応じて言葉を工夫しながら、構成表を書いている。 【書く】 作った原稿を読み合い、園児たちにとって分かりやすいものになっているかどうかを助言し合っている。 【伝国】 話し言葉と書き言葉の違いに気付くとともに、敬語の使い方に注意している。</p> |
| | 1 | <p>言葉のいづみ2 「日本語の文字の歴史」 (言①)</p> <p>■文字の歴史や万葉仮名について知り、平仮名や片仮名の由来について理解することができる。</p> <p>○伝国イ(エ)：語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。 ◎伝国ウ(イ)：仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p> | <p>①日本語の文字は、漢字を利用して日本語を書き表したことを知る。 ②万葉仮名について知り、平仮名と片仮名の由来について理解する。</p> | <p>【関心】 日本語の文字の由来に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【書く】 適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】 日本語の文字の由来やその使い方に対する感覚などに意識を向け、仮名の由来について理解している。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|---|--|---|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 2 | 1 | <p>新しい漢字 言葉をつないで文を作ろう (書①) ■学年配当漢字を読み書きするとともに、 前学年で学習した漢字を文中で使うことができる。</p> <p>○書(1)オ:表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ◎伝国ウ(ア):学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> | <p>①文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ②読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ③既習の漢字を使って文を作る。 ④適正な文になっているか確かめる。</p> | <p>【関心】漢字に対する関心を深め、適切に使おうとしている。 【伝国】五年や前学年までに配当されている漢字を読み書きし、文中で使っている。</p> |
| 3 | 3 | <p>物語の読み方を広げよう 「ゆず」 (読③) ■手掛かりをもとに「ゆず」を読み、物語の読み方を広げることができる。</p> <p>○読(1)ア:自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○読(1)イ:目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 ○読(1)エ:登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ○読(1)オ:本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○読(1)カ:目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。 ○伝国イ(ケ):比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p> | <p>①「基本的な手がかり」や「つぶやき」をもとに、「ゆず」を読む。 ②「読み方のレッスン」を読み、対話するように読むなどの読み方を知る。 ③「『読むこと』と『見ること』」の指示に従って進め、物語の読み方を知る。</p> | <p>【関心】物語の読み方を知り、「ゆず」を読み進めようとしている。 【読む】情景描写や行動描写などに着目しながら読んでいる。 【読む】音読したり対話するように丁寧に読んだりする工夫した読み方をしている。 【読む】他の本を読み、文章とともに挿絵に着目して自分の考えを広げている。 【伝国】比喩表現の効果に気付いている。</p> |

| 配 当 月 | 時 数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-------------|--------|--|---|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 3 | 6 | <p>7. すぐれた描写を報告しよう 「大造じいさんとがん」 (読⑤書①) ■場面の様子に注目し、登場人物の心情の変化をとらえるとともに、それらを表す優れた表現を読み味わうことができる。</p> <p>○書(1)エ: 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 ○書(2)イ: 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。 ○読(1)ア: 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○読(1)イ: 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 ○読(1)エ: 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ○読(1)オ: 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 ○伝国イ(カ): 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 ○伝国イ(ケ): 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。</p> | <p>①物語のあらすじをとらえる。 ②優れた情景描写などを抜き出し、その効果について自分の考えをまとめたり、話し合ったりする。 ③人物の言動や情景描写から、心情の変化を読み、人物像や主題について話し合う。 ④情景や心情を考えながら音読する。 ⑤今までに読んだ他の物語から優れた描写を取り出し、それが物語でどのように生きているかを書いたり、報告し合ったりする。</p> | <p>【関心】優れた行動描写や情景描写の効果への関心を深め、読み進めようとしている。 【書く】優れた描写を取り出し、それが物語でどのように生きているかを書いている。 【読む】思いや考えが伝わるように音読している。 【読む】情景などの優れた描写や人物の心情の変化を読み取り、自分の考えをまとめている。 【読む】他の作品を読み、優れた描写を取り出し、それが物語でどのように生きているかを報告している。 【読む】人物の心情の変化や描写の効果について話し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【伝国】情景を描写する言葉や比喩表現をとらえている。</p> |
| | 1 | <p>言葉の広場 「部首のくじ」 新しい漢字 (書①) ■部首についての理解を深め、適切に使うことができる。 ■学年配当漢字を読み書きすることができる。</p> <p>○書(1)オ: 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。 ○伝国ウ(ア): 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。 また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ○伝国ウ(イ): 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p> | <p>①「部首」とはどんなものであるかふり返る。 ②「部首のくじ」をする。 ③文章の中で使われた漢字を読んだり書いたりする。 ④読み方や意味などを、辞典を使って調べる。 ⑤既習漢字を使った文を作る。 ⑥適正な文になっているか確かめる。</p> | <p>【関心】部首に対する理解を確かめ、適切に使おうとしている。 【書く】適正な文になっているか、確かめたり直したりしている。 【伝国】部首の意味や役割をとらえている。 【伝国】五年に配当されている漢字を読み書きしている。</p> |

| 配当月 | 時数 | 単元・教材 ■学習目標 | 学習活動 | 評価規準 |
|-----|-----|--|---|--|
| | | <学習指導要領との対応> | | |
| 3 | 1 | <p>これからのあなたへ 「雲の上の青い空」 (読①) ■作者の思いを想像しながら音読することができる。</p> <p>◎読(1)ア:自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○伝国イ(カ):語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p> | <p>①表現から読み取った作者の思いを想像して話し合う。 ②内容を味わいながら音読する。</p> | <p>【関心】作者の思いを想像し、自分の思いと重ねながら読もうとしている。 【読む】自分の思いや考えが伝わるように音読している。 【読む】作者の思いに加えて自分の思いや考えが伝わるように音読している。 【伝国】短詩形の表現による余韻に気付いている。</p> |
| - | (8) | <p>◆「木童うるし」 ■戯曲の形式を理解することができる。 ■描かれている人物の言動から、登場人物の関係や心情を読み取ることができる。</p> <p>◎読(1)ア:自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ◎読(1)イ:目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 ◎読(1)エ:登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 ○伝国イ(カ):語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 伝国イ(キ):文や文章のいろいろな構成があることについて理解すること。</p> | <p>①人物の言動から心の動きや性格、関係の変化を読み取る。 ②ト書きや情景描写から場面の様子をとりえ、音の効果を話し合う。 ③効果的な表現になるよう工夫して音読する。 ④工夫した点を押さえながら相互に音読し合い、情景が伝わる効果的な表現のしかたを考えたり互いのよさを認めたりする。</p> | <p>【関心】劇の台本に興味をもち、戯曲の形式を理解し、読み取った事を音朗読に生かそうとしている。 【読む】藤六と権八の言動から、二人の関係や心情を読み取っている。 【読む】自分の思いや考えが伝わるように効果的な読み方を工夫している。 【伝国】戯曲ならではの言葉の使い方と形式に気付いている。</p> |

※145時間中、131時間を各単元に配当。残る14時間は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」など、必要に応じて補充するよう計画。

【配当時数】

| 領域 | 話聞 | 書 | 読 | 伝国 | 合計 |
|----|----|----|----|----|-----|
| 時数 | 23 | 50 | 44 | 14 | 131 |